

在宅医療地域ケア通信

在宅

医療と介護の今

今号の主な内容

- 誤嚥性肺炎の予防は口腔機能が低下する前から — 杉並区歯科保健医療センターの福井歯科医師…… 1面～2面
- 平成30年度の第1回在宅医療推進連絡協議会が開催…… 3面
- 心掛けていること、うれしかったことを語り合う — 阿佐谷圏域の在宅医療地域ケア会議…… 4面

■ 誤嚥性肺炎の予防は口腔機能が低下する前から — 杉並区歯科保健医療センターの福井歯科医師

日本人の死亡原因トップ3はがん、心疾患、脳血管疾患ですが、高齢になるにつれて肺炎が上位になります。高齢者は特に誤嚥で肺炎を起こすリスクが高くなっており、予防するには舌の動きや嚙む力、飲み込む力などの口腔機能が衰える前に手当てすることが必要です。その意味でも在宅で療養する高齢者への歯科訪問診療が改めて注目されています。杉並区歯科医師会は歯科保健医療センターを拠点に高度歯科治療と訪問診療を展開しています。同センターの福井智子歯科医師に訪問診療の現状・課題と誤嚥性肺炎の予防法について聞きました。

また、平成29年6月に杉並区歯科医師会会長に就任した飯島裕之氏に、今後歯科医師会が目指す訪問診療について語ってもらいました。(歯科保健医療センターの陣容や機能については次ページ参照)

● 歯科保健医療センターによる訪問診療の現状は？

訪問診療は通院ができない高齢者が大半で、ほとんどはケアマネジャー（以後、ケアマネ）が家族から依頼があります。センターからは通常、私を含めた歯科医師と歯科衛生士と一緒に訪問します。センターで対応できない場合は地域の協力歯科医（区内で約60人）にお願いしています。介護保険の居宅療養管理指導で歯科衛生士が単独で訪問する場合があります。

訪問診療では歯周病治療のための歯石除去や虫歯の治療、義歯の調整、簡単な外科的治療など、外来の歯科診療とほぼ同様の治療を行うことができます。センターでは訪問歯科診療に必要な器具機材を十分に備えています。

訪問診療の申し込みがあった時点でケアマネと連絡を取り、患者さんが受けている介護保険サービスの内容や家族の状況などの情報を共有します。家族にはご本人の口腔状態や治療の説明をして了解を得ます。



歯科保健医療センターの福井智子歯科医師



訪問診療に必要な器具機材

●患者さんの口腔状態から見えてくる課題は？

歯科でもオーラルフレイル（健康と機能障害の中間で、軽微な口腔機能の低下の状態）があって、その一歩先が口腔機能低下症、さらに悪化すると摂食嚥下障害になります。口腔機能低下症になると、舌の力が弱い、口の中が不潔、舌苔の付着がある、咬合力が弱いなどさまざまな症状が出ます。

特に認知症や脳血管疾患などで要介護状態になると、歯がそろっていても、入れ歯が合っても口やのどの動きが悪くなっていることが多いため食事ができません。栄養を摂れないと体重が減る、筋肉も減る、基礎代謝も落ちるといふ負のスパイラルに陥ります。その結果、誤嚥性肺炎になるリスクも高くなります。



訪問診療による歯の治療

●誤嚥性肺炎を予防するには？

高齢者が要介護状態となった場合、身体の治療やリハビリが中心となり、口の方は本人が「痛い」と言わない限り家族も気づかないため、歯科の介入は遅れがちです。そのため、口腔内の悪化が誤嚥性肺炎を助長する結果になる場合が多いのです。その手前で食い止めたいところです。また、要介護状態になると歯科治療が中断してしまうことがあります。外来に通えなくなると受診のきっかけを失い、修復が難しいほどに歯が崩れたり、入れ歯を入れられない状態になったりと、さらに口腔内環境を悪化させてしまいます。かかりつけ歯科医師との関係を断ち切らず、訪問歯科診療への移行も検討してもらえればと思います。誤嚥性肺炎は口腔ケアで防げると言われてからすでに20年近く経ちますが、実際に口腔ケアが徹底されていることは多くありません。要介護になる前から口腔ケアに努め、口腔内環境を整えるよう心掛けていただきたいと思います。

●口腔管理の専門職として定期的な訪問診療を

—— 飯島歯科医師会長

平成2年に開業して28年経ちますが、患者さんも年を取り、その間に身体が不自由になって通院できなくなる人が



飯島裕之・歯科医師会会長

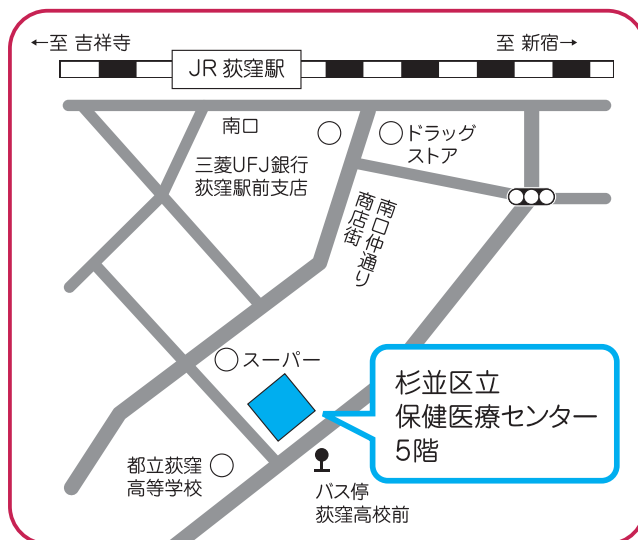
増えています。私たち開業医にとっての理想形は、そうした患者さん宅をかかりつけ医として伺い、診療することです。患者さんが「痛い」と言った時に対応するだけでなく、これからはもう一歩踏み出して口腔健康管理の専門職種として定期的に訪問し、口腔ケアと健康管理をするというシステムを作っていくことが、歯科医師会に求められています。

訪問診療に必要な器具を整備することも必要ですが、併せて歯科医のスキルアップが課題です。歯科医師会の研修会、講習会などを通じて会員の先生方に勉強してもらい、気軽に訪問診療に出られるようにしたいと思います。

【杉並区歯科保健医療センター】

杉並保健所（荻窪5丁目）の5階にあり、主として障害者と病気を持つ高齢者の歯科診療を行っています。

外来診療と訪問診療の2つを行っていて、スタッフは常勤・非常勤の歯科医師17名、歯科衛生士14名、歯科助手2名など40名。1日当たりでは外来・訪問合わせて歯科医師2～4名、歯科衛生士8～10名、歯科助手1名など16～20名です。訪問診療には歯科医師1名、歯科衛生士1名、訪問運転手1名。介護保険の居宅療養管理指導で歯科衛生士が1名で訪問しています。



杉並区歯科保健医療センターの地図

■ 平成30年度の第1回在宅医療推進連絡協議会が開催

平成30年度の第1回在宅医療推進連絡協議会が8月30日、ウェルファーム杉並で開催されました。同協議会は保健・医療・福祉の関係機関が連携して在宅医療の支援体制を構築するため、平成23年に設置されたもので、年2～3回開かれています。メンバーは杉並区の医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護ステーション連絡会、居宅介護支援事業者協議会、地域包括支援センター（ケア24）など各団体の代表、学識経験者、区の関連部署で構成。今回の会合では、今年度の区の在宅医療関連事業についての取り組みや今後の計画について意見交換が行われました。

● 在宅医療の地域資源を把握する

最初の議題は、平成23年度から着手されている「地域の医療及び介護の資源の把握」（区の事業）。隔年で医療機関調査が行われてきていますが、実施年に当たる今年度は、この調査と併せて医療機関を対象とした在宅医療に関するアンケートを行っていることが報告されました。アンケートでは、訪問診療など在宅医療関連の事業を行っていない医療機関に対して、その理由を尋ねる項目も含まれています。在宅療養支援診療所数の減少傾向が全国的に見られる中で、杉並区における在宅医療の課題の解明につながることを期待されます。集計結果は、来年3月開催予定の第2回協議会で報告される予定。

● 医療・介護の「連携シート」見直しも

続いて、「医療と介護の連携『すぎなみガイドライン』」の改訂が検討されました。このガイドラインは、医療機関と介護事業者が情報共有・伝達を円滑に行うためのツールと

して、本協議会に設置された作業部会で平成26年に作成されたもの。その中で、在宅療養していた人が入退院する際に、介護側と医療側の情報共有の手段として杉並区共通様式の「連携シート」の使用を推奨しています。

改訂の主なポイントは、今年4月に国から提示された「入院時情報提供書」と「退院・退所情報記録書」の様式例を参考に「連携シート」の記載項目を見直すこと。国が様式例を提示した背景には、診療報酬と介護報酬が改定され、入退院時の情報連携が加算項目となったことがあります。改訂されると「本人の趣味・興味・関心領域、本人の生活歴、入院前の本人の生活に対する意向」など、疾患や障害にとどまらない、より広範な患者本人に関する情報が介護側から入院先に提供されるようになります。「連携シート」は様々な意見をもらいながら、来年3月改定される予定。

そのほか、会合では今後計画されている講演会や研修などについても検討されました。



■ 心掛けていること、うれしかったことを語り合う —阿佐谷圏域の在宅医療地域ケア会議

医療と介護両サイドの「顔の見える関係」づくりを進めている在宅医療地域ケア会議は4年目に入りました。平成30年度の第1回のケア会議は、開催一覧にあるように7月を中心に各圏域（高円寺は10月）で開かれ、さまざまなテーマで意見交換が行われました。本号では「支援して良かった・嬉しかったケースをシェアしよう～心掛けていること、工夫していることを共有しよう～」をテーマに7月25日に開かれた阿佐谷圏域のケア会議をレポートします。会場の杉並区役所会議室には約80人が集まりました。

これまで各圏域とも具体的な事例を持ち寄り、医療、介護それぞれの職種の立場から意見を述べ合うやり方をしていますが、阿佐谷圏域は各人が職務上心掛けていること、仕事の結果うれしかったことなどについて語り合いました。このテーマはリーダー医師の種田明生先生の提案で、「事例検討は職種によっては難しい話題も多い。参加者みんなが活発に発言できて、楽しく、前向きな話し合いをする

ため」です。ほんの一部ですが、参加者の「心掛けていること」と「うれしかったこと」の具体的な内容を紹介します。

●心掛けていること

- まったく知らないお宅を訪問するときは、家の中を観て、その人の趣味や嗜好も知るようになっている。
- 本人がこだわって大切にしていることを大事にする。「困り事がなくなったら何をしたいですか?」と聞く。
- 本人の個性が出る部分を引き出すような会話に努めている。
- 診療するときはハイタッチ、握手、スキンシップをし、(病気とは)関係がない話をするようになっている。
- 料理など本人の得意だったことを家族や関係者に伝え、できることをほめ、できないことは否定しないようにする。

●うれしかったこと

- 仕事がつらくて「やめよう」と思ったとき、本人や家族から「ありがとう」と言われると何よりうれしい。頑張ろうと思える。
- 家族・身内だからこそ決められない施設入所などの問題。その悩みに寄り添って、選択のきっかけ作りとサポートをし、精神的負担を軽くして喜ばれた。
- 介護をめぐる家族の思いが各々違っていたが、一人ひとりの考えを聞きながらお互いに納得いく方向性が見いだせてよかった。
- 家族の積極的な要望でケアプランを何度も変更した結果、多くの事業所が関わるようになり、各事業所からの提案もあってよいサービスができるようになった。



■平成30年度 第1回在宅医療地域ケア会議 開催一覧(開催順)

圏域名	日時	テーマ
西荻	5月22日	「ACP って何?～もしもの時が来る前に～」
方南・和泉	7月4日	「病院と医療介護多職種チームの連携」を深める～それぞれの職種ができる支援は何か～
井草	7月10日	「浮腫を発見したら初期行動はどうする?」～多職種で連携し早期発見・早期対応するには～
阿佐谷	7月25日	支援して良かったケースや嬉しかったケースをシェアしよう～皆で心掛けていること、工夫していることを共有しよう～
高井戸	7月25日	「私と家族を支える連携シート」を活用して、ご本人及び家族の『意思決定支援』を考える
荻窪	9月6日	「医療と介護の地域ケアマップづくり」(3回連続)
高円寺	10月2日	「医療の専門職に学ぶ」(3回連続)～歯医者さん、歯科衛生士さんとの連携～(初回)

★次号は平成30年12月発行予定です。